

### タンザニアで天然ガス利用シンポジウムを開催

日本エネルギー経済研究所は2015年1月29日にタンザニア、ダニエスサラームのセレナホテルで、「天然ガス利用シンポジウム」を開催した。本シンポジウムは、当研究所が国際協力機構（JICA）から受託した「タンザニア国天然ガス利活用に係る情報収集・確認調査」の一環で行われたものである。本調査は、当研究所アジア太平洋リサーチセンター参与である兼清賢介が団長を務め、当研究所の他に東洋エンジニアリング、日揮、千代田化工建設、東京ガス、八千代エンジニアリング、三菱総合研究所が参加しており、オールジャパンで構成されている。

タンザニアの天然ガス開発は、1974年にダルエスサラームの南200キロに位置するソング・ソング島で、陸上から浅い沖合にかけてソング・ソングガス田が発見されたことに始まり、2001年に世界銀行が同ガス田の開発とガス利用設備建設の支援を実施した。これにより2004年にはガス供給システムが完成し、ダルエスサラーム地区の発電所等が運転開始している。さらに、国内向け天然ガス供給を大幅に増加するため同国南部の浅海鉦区で発見されたムナジ湾ガス田からダルエスサラームへ542kmのパイプライン（送ガス能力784Bcf/年）を建設中で、これに合わせて新設のキネレジ火力発電所が2015年に運転開始の予定である。また、大水深ガス田の存在も確認されており、その資源量は44Tcf（原始埋蔵量：タンザニア石油公社2014年6月末の推定）と、これまでの陸上部や浅海部のガス田（同7Tcf）と比較し圧倒的に大規模であることから、モザンビーク同様、タンザニアでもLNGの事業化が期待されている。



タンザニア国エネルギー鉦物省 Charles Kitwanga 副大臣（エネルギー担当）と在タンザニア日本国大使館岡田眞樹大使によるオープニングスピーチ

本シンポジウムは、天然ガス利用マスタープランを作成するに当たり、タンザニア国エネルギー鉦物省、石油公社などの政府機関や関係するステークホルダーに対して、世界のLNG市場の展望と技術、天然ガスを利用する産業（肥料/アンモニア、メタノール、GTL、DME、

CNG) についての技術を紹介した。

シンポジウムの参加者は約 70 名で、タンザニア国エネルギー鉱物省 Charles Kitwanga 副大臣（エネルギー担当）と在タンザニア日本国大使館の岡田眞樹大使のオープニングスピーチで始まり、調査団からのプレゼンテーションに対しては、数多くの質問があるなど関係者の関心の高さを窺うことができた。



兼清団長の挨拶



シンポジウム参加者

今後は、17 名の調査団員がタンザニア国のカウンターパートと共に必要な情報収集・分析・検討を行い、2045 年を目標年としたタンザニア国の天然ガス利用マスタープランが本年 10 月頃を目処に完成される予定である。